

【今年度の取組目標等に関する自己評価】

1 学習指導

- ・観点別評価の方法について会議の場で教員から積極的に質問が出るなど、正しい評価の在り方に関する意識の向上が見られる。
- ・補習や課題を含めた生徒への働きかけは全教員が粘り強く継続した対応を行い、単位習得及び進級・卒業につなげた。
- ・適切な進路選択を目的とした「進路実現システム」は組織的・計画的に運用されており、学校全体の取組みとして定着した。
- ・Teams 等の活用によるペーパーレスでの学習機会は増加しているが、多くがスマートフォンでの使用となっている。
- ・希望者対象ではあるが数学検定・英語検定等を行い、意欲の向上を図った。
- ・年々若手教員の比率が増加している。新規採用教員の育成は教科を超えて多くの教員がかかわり、教員相互の授業見学は積極的に実施された。

2 生活指導（重点目標）

- ・朝のHR 復活により遅刻者数増が懸念されたが、粘り強い遅刻指導で微減となった。
- ・生徒提案によるゴミ箱設置を検討したが、足立区と学校の分別ルールの違い等から十分な成果を挙げることができなかった。
- ・自他を尊重する態度は、引き続き各種集会等で繰り返し伝えてきた。特別指導は一定数発生しているが、他者の安全に影響を与える可能性がある案件は減少している。
- ・自転車乗車マナーやヘルメット着用は継続した声掛けや指導を行っていく。
- ・生徒理解委員会を中心とした定期的な生徒情報の共有が定着し、個に応じたきめ細かい対応が可能となった。

・数値目標(カッコ内は昨年度の値)

年間遅刻延べ回数	: 6,567 回(6,627 回)
生徒の特別指導件数	: 11 件(8 件)

3 特別活動・部活動（重点目標）

- ・体育祭・文化祭は生徒主体での活動を目指した。気温上昇への対応や内容の充実等について引き続き検討と改善を行っていく。
- ・部活動加入率は増加傾向にある。生徒間のトラブルをゼロにすることはできなかったが、顧問がミーティング等で適切に対応して自己理解・他者理解に結び付けた。
- ・韓国研修旅行は定着し、生徒による成果発表も行った。今後も充実を図っていく。
- ・ボランティアの声掛けは継続し、少数ではあるが増加傾向となった。

・数値目標(カッコ内は昨年度の値)

部活動加入率	: 68.0%(62.4%)
生徒の学校行事(体育祭・文化祭)満足度肯定回答	: 85.0%(86.5%)
ボランティア活動への参加生徒延べ人数	: 60 人(50 人)

4 進路指導（重点目標）

- ・授業外講習の一環として、年間を通して生徒に働きかけを行う「進路実現システム」を実施した。3年生の参加者数が減少していたため、総数としては昨年度より減っているが、1年生の希望者数は増加している。

- ・本校の特色であるインターンシップを予定通り実施し、1年生に対する動機づけとした。
- ・外部機関と積極的に連携し、進路について学ぶ機会を十分に確保した。そのため、進路指導に関する生徒の満足度も若干ながら向上している。
- ・資料作成等に事故はなかったが、進路決定に伴う意思疎通の面で、進路指導部、学年、生徒・保護者、管理職の連携を更に深める必要が感じられた。

・ **数値目標(カッコ内は昨年度の値)**

進路決定率	: 90.1%(95.1%)
進路指導満足度肯定回答	: 90.0%(88.9%)
授業外講習参加生徒延べ人数	: 607人(626人)

5 募集・広報活動

- ・ホームページの更新回数は概ね昨年同様だが、部活動の情報発信が少ない傾向であった。
- ・学校説明会の参加者数は外部会場では微増したものの、本校実施では大きな変化がなく、全体としては例年同様であった。
- ・合同文化祭等で活動する部活動が複数あり、本校の良さをPRする機会となった。
- ・入学選抜では、本校を希望する生徒数に大きな変化はなかった。

6 学校経営・組織体制（重点目標）

- ・時差勤務、育児休業等の活用は進んでいるが、勤務時間が長い職員は多い。生徒対応等の時間は縮減困難であるため、更なる業務縮減を検討する必要がある。
- ・体罰、個人情報管理、会計等に関する事故はゼロを達成した。
- ・企画調整会議、職員会議のペーパーレス化を達成した。
- ・若手教員に対する働きかけは全教員体制で行っており、校内の雰囲気は良好である。
- ・支援が必要な生徒の理解に努め、スクールカウンセラーと密接な連携を行った。

・ **数値目標(カッコ内は昨年度の値)**

教員の年休取得日数の年間平均	: 14.4日(12.8日)
勤務時間外の在校時間が月45時間超の延べ人数	: 159人(新規)
特別支援教育に関する委員会の開催回数	: 10回(12回)

【課題と改善策】

- ・スタディサプリの導入を決定した。自宅学習の機会を増やし、予習・復習の習慣を身に付けさせることを主たる目的としているが、授業や講習においても必要に応じて活用し、到達度の確認や生徒所有のPCの利用にもつなげていく。
- ・生徒の自己肯定感向上を目指し、検定試験等の受検機会を増やしていく。
- ・重篤な案件はないが自転車での事故は一定数発生している。ヘルメット着用に関して粘り強く声掛けを行っているが、更なる指導の充実に向けて生徒部と学年が協力し、近隣警察と連携しながら対応していく。
- ・遅刻指導・服装指導等は粘り強く生徒に声掛けを行い、改善を促していく。
- ・継続した見守りが必要となる生徒が複数いる。来年度から実現するスクールカウンセラーの複数配置等を有効活用して相談体制の充実を図る。
- ・希望者を対象とした韓国との国際交流を継続する。
- ・教育課程の見直しを行い、少人数指導の内容、適切な選択科目の設置、修学旅行の時期や場所などの学校行事を精査する。
- ・「進路実現システム」は本校の特色の一つとして定着した。引き続き講座の充実を図り、適切な進路決定に結び付けていく。
- ・図書館の更なる活用を目指し、図書館専門員と連携して読書活動の充実を図る。